

歯科医師の資質向上を目指した臨床研修の  
必修化及び国家試験の実技能力判定の  
整備等に関する総合的研究

平成 12 年度厚生科学研究費補助金

(医療技術評価総合研究事業)

総括研究報告書

主任研究者 中原 泉

(財) 歯科医療研修振興財団

平成 13 年 3 月

# 厚生科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）

## 総括研究報告書

歯科医師の資質向上を目指した臨床研修の必修化及び国家試験の実技能力判定の整備等に関する総合的研究

主任研究者 中原 泉 （財）歯科医療研修振興財団専務理事

今年度、臨床研修研究班は、必修法制化による歯学生の意識変革の追及と、試案の到達目標を公開シンポジウムにおいて提示し、集まった多くの意見を導入し、再構築した。また収集した資料に基づいて、修了の評価基準のあり方ならびに施設の指定基準のあり方を検討した。

一方、国試実技能力判定研究班は、歯科医師国家試験における実技試験の試案を作成し、保存系、補綴系、外科系、放射線系、小児・矯正系についてそれぞれ試験媒体、試験方法、評価方法を検討し、さらに評価者の誤差を計測した。

### 臨床研修必修化

分担研究者	所属施設	職名
住友 雅人	日本歯科大学歯学部	教授
真柳 秀昭	東北大学大学院	教授
井上 宏	大阪歯科大学	教授
櫻井 薫	東京歯科大学	教授
吉澤 信夫	山形大学医学部	教授
岩久 正明	新潟大学歯学部	教授
俣木 志朗	東京医科歯科大学大学院	教授
久光 久	昭和大学歯学部	教授

### 歯科医師国家試験

分担研究者	所属施設	職名
道 健一	昭和大学歯学部	教授
作田 正義	大阪大学	名誉教授
齊藤 毅	日本大学歯学部	教授
川添 堯彬	大阪歯科大学	教授
花田 晃治	新潟大学歯学部	教授

総括内容：それぞれの分担報告書をもって代用する

研究発表：本研究の要旨を以下の通り発表する予定である

- 学会発表 第20回日本歯科医学教育学会  
(於：東京) 平成13年6月25,26日
- 論文発表 日本歯科医学教育学会雑誌  
第17巻、第1号、平成13年12月20日予定

## 厚生科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）

### 分担研究報告書

#### < 歯科医師臨床研修の実態調査 >

1. 歯科学生に対する臨床研修必修化に伴う意識調査
  2. 歯科医師臨床研修医の診療収入に関する調査—複合研修方式・従たる施設のケース—
  3. 歯科医師臨床研修医の処置項目に関する調査—複合研修方式・従たる施設のケース—
- 付. 厚生科学研究事業公開シンポジウム[歯科医師臨床研修の必修化に向けて]運営報告

分担研究者	住友雅人	日本歯科大学歯学部教授
	真柳秀昭	東北大学大学院歯学研究科教授
研究協力者	波多野尚樹	波多野歯科医院 院長
	新谷明喜	日本歯科大学歯学部教授
	田中義弘	神戸市立中央市民病院歯科部長
	河合峰雄	神戸市立中央市民病院歯科医長

#### 研究要旨

1. 平成 12 年 12 月 6 日付で歯科医師臨床研修制度必修化が公布されたことに対する歯科学生の反応を、アンケート調査によって把握した。
  2. 給与保証を医療収入で充当するにあたり、複合研修方式による歯科診療所での研修医の売上げを調査した。
  3. 処置内容の最大公約数を把握する目的で、複合研修方式による従たる施設での処置項目について調査した。
- 付. 研究班が調査・分析した内容と、到達目標の試案を公開し、広い分野の方々の意見を求めた。

## 1. 歯科学生に対する臨床研修必修化に伴う意識調査

## A. 研究目的

日本歯科大学歯学部ならびに新潟歯学部に在学する1、6学年の学生を対象として、アンケート方式による歯科医師臨床研修必修法制化に伴う意識の変革について調査を行った。

## B. 研究方法

日本歯科大学ならびに新潟歯学部に資料1(1学年用)、2(6学年用)のアンケート用紙を送付し回答を得た。

## C. 研究結果

回答者は日本歯科大学歯学部(以下東京校)1学年107名、6学年102名、新潟歯学部(以下新潟校)1学年103名、6学年97名であった。

集計結果を資料1-3、1-4に示す。「その他」の回答は資料1-5、総合の意見は資料1-6に示す。

6年生においては、5学年次との意向の変化について比較検討した。ただし、6年生の調査対象者は前年度(5学年次)とほぼ一致しているものの、完全に一致してはいない(5年生のデータは平成11年度の研究結果による)。

## D. 考察

以下の○内の数字はアンケート項目に対応している。

あなたが将来目指す方向性については、開業歯科医師になりたいという割合が新潟校で5学年次、6学年次ともに55%と変わらなかったのに比べ、東京校では73%から66%と減っている。これは少子高齢化に伴い、大都心圏での開業の厳しさを実感してのことと推察する。1年生は6年生に比して開業歯科医の志向が強い。病院勤務の希望者は卒業間近に

なるにしたいが高くなっているが、これは給与額が高いことにも起因していると思われる。しかし、実際にはポストは少ない。また、医療機関の附属病院を希望するものは6年生で多くなっている。これは、専門分野の修得を目的としていると理解できる。(①)

臨床を目指す人の目標は6年生では圧倒的にジェネラリストが多くなる。入学時には専門医を目指していたものが、より現実的なジェネラリストを目指している。①とは逆の結果ではあるが、高学年になるに従い、専門性は一般歯科をベースにして成り立つとの認識によるものと考えられる。(②)

5年生・6年生への質問が歯科医師研修制度を知っているか否か、1年生には必修法制化を知っているか否かであった。6年生になって、20%以上の学生が制度を知らないことに驚いた。1年生は入学時の説明会や講義で必修法制化についての知識を得ている。5年生・6年生は大学の講義で知ったものが多いところから、知らないと答えたものは説明のあった講義を欠席していたものと想像する。(③・③-1)

臨床研修制度を歯学生に知らせる必要があるかの質問に対して、6年生は約半数が必要であると答えている。一方、1年生では90%のものが必要があると回答した。これは、1年生が必修法制化の対象になる学年であることから理解できる。(③-2)

必要があると答えたのものに情報発信の方法を聞いたところ、大学でのオリエンテーションが多く、次いで、ガイドブックの充実、そして現代的な方法としてのインターネットをあげるものがいた。やはり、大学において正式な形での説明会が望まれる。(③-3)

卒後臨床研修制度に参加するか否かの質問

の割合が増加している。このことは、卒前の臨床経験では不十分であるとの認識に基づくものと思われる。1年生に対しては、修了証がないと管理者になれないとアンケート用紙の中で説明を加えた。結果は、83%が制度に参加すると答えている。この割合が高学年になるに従って、どのように変化するか興味もたれる。(④)

臨床研修を受けたい施設では、歯科大学附属病院の割合が高いが、東京校の6年生はいわゆる複合研修方式での研修希望者が60%を占めている。1年生は複合研修方式の認識はないと考えられるにもかかわらず、約50%のものが大学附属病院と歯科診療所の組合せを選択している。(④-1)

臨床研修を受けたい場所で興味深いのは1年生と東京校の6年生の20%強のものが大都市圏を希望している一方、新潟校の6年生では、わずか7%が希望するのみであった。しかし、新潟校の1年生および6年生は約50%のものが実家近くの研修場所と答えている。(④-2)

臨床研修で修得したい事項においては、歯科的手技能力が多く、インフォームドコンセントがそれにつづく。4~8%とわずかであるが、在宅診療・障害者治療をあげている。(④-3)

適当と思われる臨床研修期間は、東京校の6年生の75%が1年間と回答したのに比して、新潟校の6年生の40%が2年間と答えた。これは、卒前の臨床実習の形態が異なることに起因すると思われる。(④-4)

望ましい身分制度では圧倒的に、給与・保険などの保証のもとで研修医に専念できる制度を望んでいる。現在、同校附属病院の研修医には月額4万円が支給されているが、不足

分をアルバイトで補う方式の希望が強い。(④-5)

受けない理由では、卒後すぐに実践の場で診療したいが約40%あった。これは、臨床研修制度のカリキュラムが実践的でないという認識の結果だと思われる。(④-6)

平成18年度からの必修化についての6年生に対するアンケート結果は、新規参入歯科医師は、気の毒であると答えたものの割合が多かった。これは、必修時の条件が明らかにされていないためだと思われる。身分の保証と、実践的なカリキュラムが設定されれば、必修化の理解が得られると考える。(⑤)

臨床研修が必修化したときの問題点として約30%が「希望研修施設で研修が受けられるか」をあげている。たしかに、入学定員数の受け入れが不可能な歯科大学・歯学部の卒業生は、他の研修機関を探さなければならないケースも起こり得る。(⑥)

将来指導医になることを希望するかについては、圧倒的に希望しないと答えたものが多い。しかし、臨床研修制度の将来の発展を考えると、指導医を多く育成する必要がある。これには、制度への理解が不可欠である。(⑦)

以上のアンケート調査の結果から、あらゆる手段を駆使した臨床研修医制度のPRと専従の指導医の養成が必要である。もちろん研修医への給与を中心とした身分保証が最重要課題であることは言うまでもない。

## E. 結論

平成18年4月1日から歯科医師臨床研修が必修化されると決定した直後に、モデル校として日本歯科大学の1学年と6学年の学生を対象としたアンケート調査を施行した。アン

ケート調査の結果、次の結論を得た。

1. 新潟校の6年生においては、臨床研修制度に参加することを望んでいる割合は5年次とほぼ同様であったが、東京校では72%が参加すると回答している。過去の受け入れ実績への学生の評価の違いであろう。参加者を増やすには、各研修機関において、可能な限り受け入れ実績を作る必要がある。
2. 必修法制化の対象となる1年生は両校とも83%の学生が参加すると回答した。必修法制化は研修制度への関心を加速度的に高める結果となった。
3. 身分の保証、特に給与の保証が本制度を充実させるには必要である。
4. 給与に関して、国家財源をメインに考えるならば、国民に対する制度のメリットを理解してもらう必要がある。

今回のアンケート調査は特定の大学の歯科学生であったとはいえ、平成11年度の本研究での調査に比して、必修法制化の影響は感じられる。やはり必修が平成18年4月1日から採用されることで、大学の対応が本格化したと読むべきであろう。





└───▶ 「b.受けない」と答えた方：

臨床研修を受けない理由は次のどれですか？

- |                          |                     |
|--------------------------|---------------------|
| <input type="checkbox"/> | a.管理者ではない勤務医として働くから |
| <input type="checkbox"/> | b.臨床研修制度がよくわからない    |
| <input type="checkbox"/> | c.大学院への進学           |
| <input type="checkbox"/> | d.基礎系の研究者を目指している    |
| <input type="checkbox"/> | e.その他 ( )           |

□ 臨床研修制度についてご意見があれば記入してください。

--

【歯科医師臨床研修】についてのアンケート  
(歯学部在校生に対する意識調査)

対象： 日本歯科大学 6 学年

該当する項目に  マークして下さい。

① あなたが将来目指す方向性について次の内 1 つ選んでください。

- a.開業歯科医
- b.病院（育成機関を除く）勤務
- c.医育機関附属の病院勤務
- d.教育機関または研究機関の勤務（基礎系）
- e.衛生行政または保健衛生業務の従事者

② 臨床を目指す方への質問

あなたは将来、幅広く診療を行う歯科医師（ジェネラリスト）と特定の領域に習熟した歯科医師（スペシャリスト）のどちらになりたいと思いますか。

- a.ジェネラリスト
- b.スペシャリスト
- c.その他（ )

③ あなたは、歯科医師法に基づく歯科医師臨床研修制度を知っていますか。

- a.知っている
- b.知らない
- c.その他（ )

「a.知っている」と答えた方：

臨床研修制度についての知識をどこで得ましたか？

- a.大学の講義
- b.雑誌
- c.その他（ )

臨床研修制度をもっと普及させる必要があると思いますか？

- a.必要がある
- b.必要がない
- c.その他（ )



「a.必要がある」と答えた方：

臨床研修制度の情報発信の望ましい方策は？

- a.各大学における在校生へのオリエンテーション  
 b.臨床研修ガイドブックの充実  
 c.インターネットによる情報発信  
 d.その他 ( )

④ あなたは、卒業後に臨床研修を受けようと思いますか。

- a.受ける  
 b.受けない  
 c.どちらとも言えない  
 d.その他 ( )



「a.受ける」と答えた方：

1) 臨床研修を受ける場合、次のどの施設での研修を希望しますか？

- a.歯科大学附属病院 [  1.母校、  2.他校 ]  
 b.歯科大学附属病院 [  1.母校、  2.他校 ] + 歯科診療所  
 c.医科大学附属病院  
 d.病院歯科

2) 臨床研修を受ける場合、次のどの場所での研修を希望しますか？

- a.母校の近郊  
 b.実家の近郊  
 c.大都市圏：(都市名： )  
 d.その他 ( )

3) 臨床研修で特に身に付けたい事項は次のどれですか？

- a.インフォームドコンセント  
 b.歯科的手技能力  
 c.全身管理  
 d.一口腔単位における計画診療  
 e.在宅診察および障害者治療  
 f.その他 ( )

4) 臨床研修について、その期間はどのくらいが適当だと思いますか？

- a.1年程度  
 b.2年程度  
 c.その他 ( )



5) 研修歯科医の身分制度について、望ましいものはどれですか？

- a. 給与・保険などの補償のもとで、研修医に専念できる制度  
 b. アルバイトとの併用  
 c. 無給医局員と同様  
 d. その他 ( )

▶ 「b. 受けない」と答えた方：

臨床研修を受けない理由は次のどれですか？

- a. 卒後すぐに実践の場で診察を行いたい（開業も含め）  
 b. 臨床研修制度がよくわからない  
 c. 大学院への進学  
 d. 基礎系の研究者を目指している  
 e. 身分が不安定  
 f. その他 ( )

⑤ 歯科医師の卒後 1 年間の臨床研修の必修化が平成 18 年 4 月から開始されますが、これについてあなたはどのように考えますか。

- a. 必修化を自分たちに間に合わせて欲しかった  
 b. 平成 18 年度以降の新規参入歯科医師は気の毒である  
 c. その他 ( )

⑥ 臨床研修が必修化された場合の問題点として考えられるものをお答えください。  
 (複数回答可)

- a. 希望する研修施設（場所）で研修が受けられるか  
 b. 身分保証  
 c. 大学院との関係  
 d. 必修化される以前の卒業者の待遇  
 e. その他 ( )

⑦ 将来、研修医を指導する指導医になることを希望しますか？

- a. 希望する  
 b. 希望しない  
 c. その他 ( )

□ 臨床研修制度についてご意見があれば記入してください。

## 日本歯科大学

	①				
	開業歯科医	病院勤務	医育機関附属 病院勤務	教育機関 or 研究機関勤務	衛生行政 or 保健衛生業務従事者
新潟歯学部6年	65	41	11	2	0
歯学部6年	67	19	10	4	1

	②		
	ジェネラリスト	スペシャリスト	その他
新潟歯学部6年	76	20	1
歯学部6年	71	24	4

	③		
	知っている	知らない	その他
新潟歯学部6年	65	28	0
歯学部6年	87	22	2

	③-1		
	大学の講義	雑誌	その他
新潟歯学部6年	54	5	9
歯学部6年	84	3	4

	③-2		
	必要がある	必要がない	その他
新潟歯学部6年	47	27	10
歯学部6年	47	38	14

	③-3			
	在校生への オリエンテーション	ガイドブックの充実	インターネット	その他
新潟歯学部6年	27	29	4	1
歯学部6年	33	15	7	1

	④			
	受ける	受けない	どちらともいえない	その他
新潟歯学部6年	42	22	32	0
歯学部6年	74	15	12	1

	④-1			
	歯科大学附属病院	医科大学附属病院	歯科大学附属病院 +歯科診療所	病院歯科
新潟歯学部6年	25	3	13	0
歯学部6年	25	3	46	3

	④-2			
	母校の近郊	実家の近郊	大都市圏	その他
新潟歯学部6年	17	19	3	3
歯学部6年	25	29	16	8

	④-3					
	インフォームド コンセント	歯科的 手技能力	全身管理	一口腔単位に おける計画診療	在宅診療 and 障害者治療	その他
新潟歯学部6年	8	30	9	15	4	2
歯学部6年	19	50	19	26	5	4

	④-4		
	1年	2年	その他
新潟歯学部6年	24	17	2
歯学部6年	57	15	5

	④-5			
	給与・保険などの保証のもとで研修医に専念できる制度	アルバイトとの併用	無給医局員と同様	その他
新潟歯学部6年	33	16	0	0
歯学部6年	59	19	0	3

	④-6					
	卒後すぐ実践の場で診察したい	臨床研修制度がよくわからない	大学院への進学	基礎系研究者を目指す	身分が不安定	その他
新潟歯学部6年	11	5	4	2	0	7
歯学部6年	9	1	4	0	1	7

	⑤		
	必修化開始時期を自分たちに合わせて欲しかった	新規参入歯科医師は気の毒だ	その他
新潟歯学部6年	35	36	16
歯学部6年	25	50	23

	⑥				
	希望研修施設で研修が受けられるか	身分保障	大学院との関係	必修化以前卒業者の待遇	その他
日本歯科大学新潟歯学部6年	50	35	23	42	6
日本歯科大学歯学部6年	55	57	35	47	7

	⑦		
	希望する	希望しない	その他
新潟歯学部6年	18	64	7
歯学部6年	12	81	7

	①				
	開業歯科医	病院勤務	医育機関附属 病院勤務	教育機関 or 研究 機関勤務	衛生行政 or 保健衛生業務従事者
新潟歯学部 1 年	67	20	3	2	0
歯学部 1 年	72	17	7	4	2

	②		
	ジェネラリスト	スペシャリスト	その他
新潟歯学部 1 年	42	36	4
歯学部 1 年	63	39	4

	③		
	知っている	知らない	その他
新潟歯学部 1 年	69	17	1
歯学部 1 年	64	40	1

	③-1		
	大学の講義	雑誌	その他
新潟歯学部 1 年	48	3	19
歯学部 1 年	25	4	40

	③-2		
	必要がある	必要ない	その他
新潟歯学部 1 年	76	7	1
歯学部 1 年	88	8	3

	③-3			
	在校生への オリエンテーション	ガイドブックの充実	インターネット	その他
新潟歯学部 1 年	36	38	8	1
歯学部 1 年	47	33	10	2

	④			
	受ける	受けない	どちらともいえない	その他
新潟歯学部 1 年	71	3	10	2
歯学部 1 年	89	6	12	0

	④-1			
	歯科大学附属病院	医科大学附属病院	歯科大学附属病院 + 歯科診療所	病院歯科
新潟歯学部 1 年	22	5	37	9
歯学部 1 年	23	12	44	13

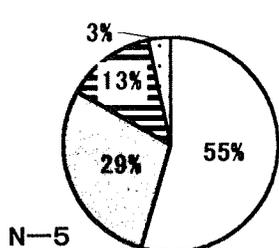
	④-2			
	母校の近郊	実家の近郊	大都市圏	その他
新潟歯学部 1 年	14	40	18	1
歯学部 1 年	43	28	20	8

	④-3					
	インフォームド コンセント	歯科的 手技能力	全身管理	一口腔単位単位 における 計画診療	在宅診療 and 障害者治療	その他
新潟歯学部 1 年	16	50	11	3	7	1
歯学部 1 年	36	67	8	12	10	2

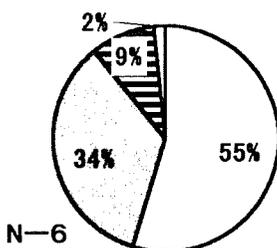
	④-4				
	管理者ではない 勤務医として 働くから	臨床研修制度が よくわからない	大学院への 進学	基礎系研究者 を目指す	その他
新潟歯学部 1 年	0	1	2	0	0
歯学部 1 年	0	1	1	0	0

## ① 将来目指す方向性

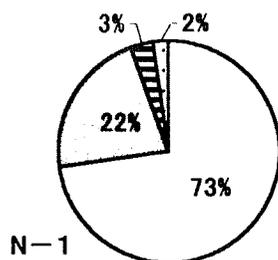
- |  |                          |
|--|--------------------------|
| □ 開業歯科医<br>■ 医育機関附属病院勤務<br>■ 衛生行政or保健衛生業務従事者 | □ 病院勤務<br>□ 教育機関or研究機関勤務 |
|--|--------------------------|



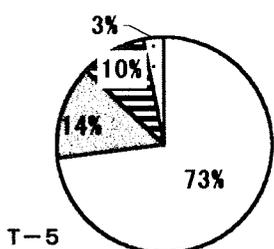
N-5



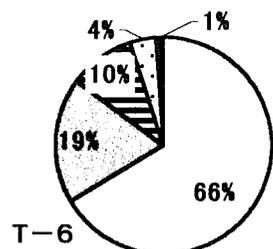
N-6



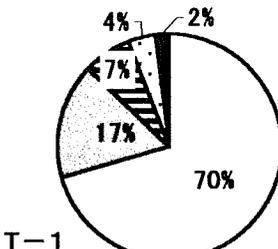
N-1



T-5



T-6



T-1

N-5:新潟歯学部5年生

N-6:新潟歯学部6年生

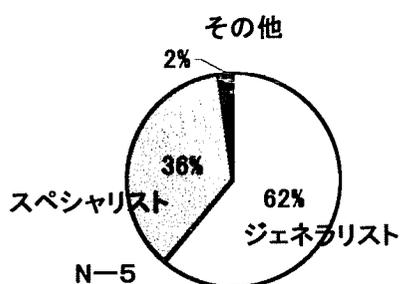
N-1:新潟歯学部1年生

T-5:歯学部5年生

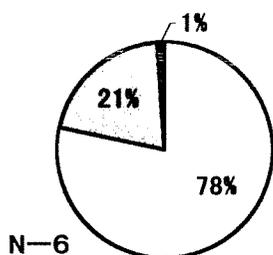
T-6:歯学部6年生

T-1:歯学部1年生

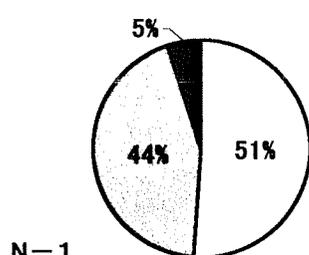
## ② 将来めざす歯科医師



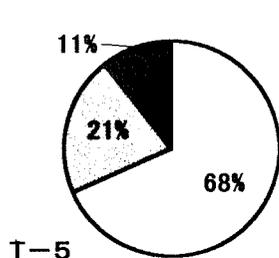
N-5



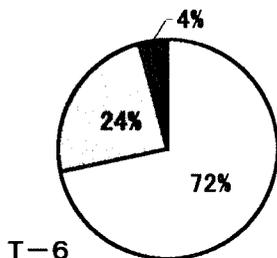
N-6



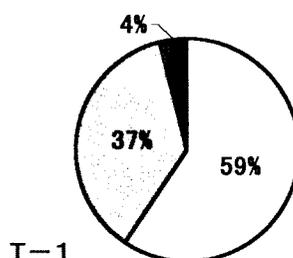
N-1



T-5



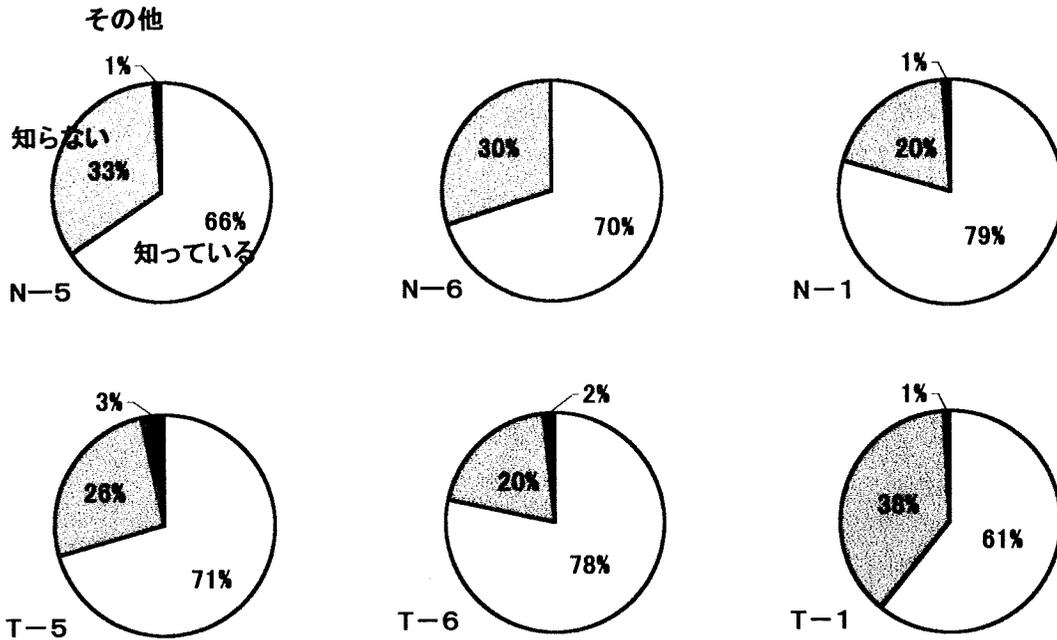
T-6



T-1

**③ 歯科医師臨床研修の制度を知っているか**

1 学年： 必修法制化



**③-1 制度をなにで知ったか**

1 学年： 必修法制化

